

景況レポート

10月

10月の県内景況は、前月に比べ悪化。 二度の台風上陸など、天候不順が各業界 に影響を及ぼした。

情報連絡員による平成29年10月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は10.6%（前月比-3.2）となっており、「横強い」は40.4%（同+5.9）、「低調」とするところが49.0%（同-2.7）、業界全体の「景況感DI」は-38.6%（同-0.7）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇ 全項目とも前月と比較して悪化しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇ 前年同月と比較して、「快晴」または「晴れ」の業界はなく、鉄工機械製造業、卸売業、小売業、商店街、建設業が「曇り」または「薄曇り」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇ 来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、12.3%（前月比-10.1）と減少しております（好転の回答0件、やや好転の回答7件）（製造業3、非製造業4）。また、変わらないも、57.9%（前月比-2.7）と減少しております。一方、やや悪化、悪化の見込みは、29.8%（前月比+7.4）と増加しております。

平成29年10月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率95.0%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	-33.33	-100.00	0.00	-16.67	-33.33	-33.33	-33.33	-50.00	-16.67	-16.67	-16.67	-50.00
繊維製品製造	66.67	0.00	-33.33	0.00	33.33	33.33	33.33	33.33	-33.33	-66.67	0.00	-33.33
木材木製品製造	-50.00	-25.00	0.00	-25.00	-25.00	-50.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-50.00	-50.00
鉄工機械製造	20.00	0.00	0.00	-20.00	20.00	0.00	-20.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00
その他の製造	-14.29	-57.14	0.00	0.00	-28.57	-28.57	-28.57	-42.86	-14.29	0.00	0.00	-57.14
卸売業	0.00	0.00	-25.00	-25.00	0.00	-25.00	0.00	-50.00	0.00	-25.00	0.00	0.00
小売業	-37.50	-50.00	12.50	25.00	-12.50	-25.00	-37.50	-25.00	-12.50	0.00	-37.50	-25.00
商店街	33.33	-66.67	16.67	-16.67	0.00	-50.00	0.00	-33.33	0.00	0.00	0.00	-16.67
サービス業	-33.33	-16.67	33.33	16.67	-33.33	0.00	-16.67	0.00	-33.33	-16.67	-33.33	-33.33
建設業	0.00	-80.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00
運輸業	33.33	-33.33	0.00	0.00	0.00	-33.33	0.00	0.00	0.00	-66.67	0.00	-33.33

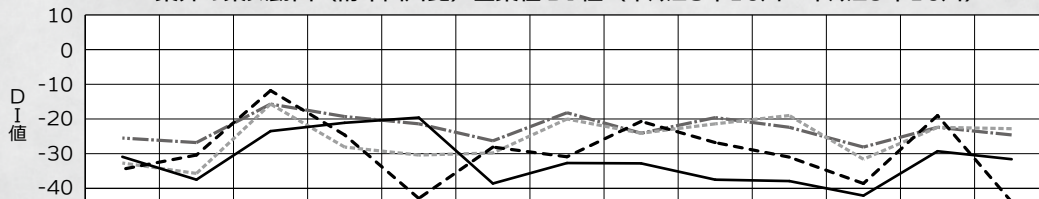
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景況動向（前年同月比）全業種DI値（平成28年10月~平成29年10月）



	平成28年10月	平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月	平成29年4月	平成29年5月	平成29年6月	平成29年7月	平成29年8月	平成29年9月	平成29年10月
業界の景況	-30.9	-37.5	-23.5	-21.1	-19.6	-38.6	-32.7	-32.8	-37.5	-37.9	-42.1	-29.3	-31.6
売上高	-34.5	-30.4	-11.8	-24.6	-42.9	-28.1	-30.9	-20.7	-26.8	-31.0	-38.6	-19.0	-43.9
収益状況	-32.7	-35.7	-15.7	-28.1	-30.4	-29.8	-20.0	-24.1	-21.4	-19.0	-31.6	-22.4	-22.8
資金繰り	-25.5	-26.8	-15.7	-19.3	-21.4	-26.3	-18.2	-24.1	-19.6	-22.4	-28.1	-22.4	-24.6

食料品製造業

<漬物>

昨年は10月から生野菜が高騰し、売れ行きが良かった分、今期は厳しい状況が続いている。中国の排水、排煙の取り締まりが厳しくなるとともに、中小の工場閉鎖が多くなってきており、原料の手当が難しくなっている。また、円安により、原料価格が高騰している。

<菓子>

10月は菓子需要につながる行事なども少なく閑散期である。もち米は少し安くなったようだが小豆関係は高値が続いている。

<酒造>

特定名称酒の伸びが好調である。ただ、全体的に出荷数量をみれば、対前年比で落ちており、全国、東北に比べて落ち幅が大きいのが気になる。輸出は好調だが、県間競争が一段と厳しくなってくると考えている。

<食品団地>

今月は週末の天候不良により、イベント・観光への影響が大きく、売上は低調だった。今後も経済環境の変化や原油価格の変動等、収益に影響が出てくる見通しで難しい状況が続いている。

繊維工業

<ニット>

業界内では生産者の高齢化が問題となっている。

木材・木製品製造業

<製材業>

原木については、近年この時期は入荷が少なく今年も同じ傾向にある。製材品については、県内需要は、復興公営住宅や移転用避難解除地域の新築等で一定の荷動きが確保されている。

<外材輸入>

プレカット工場の稼働率は良いようだ。天候不順により現地からの材料が不足気味に加え、他国に買い負けし現地価格が上がっている非常に厳しい状況である。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

各地の原材料や副資材の動向についての情報交換が行なわれた。おおむね口頭や電話で行なわれたが、地域格差もあり温度差があることがわかった。刻々と変化する状況を冷静な視点で見つめながら対応していきたい。

印刷

<印刷業>

運送、宅配業者からの値上げ要請が一巡して、各社ほぼ受入れた模様。今後は、用紙等の値上がりが見込まれる。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

1	当月売上数量	・前月比	約10%増
2	"	・昨年同月比	約3%増
3	本年度売上数量	・昨年対比	約11%減
4	現状	・現状	

台風の影響で雨天の日が多く、何日か工事現場が中止となったが、翌日から早出、残業をして昨年同

期の数量位出荷できて良かった。

<生コン>

平成29年10月の組合員生コン出荷数量は、160,722m³と対前年同月比-8.0%。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比-15.8%、官公需が-1.6%であった。

○民需の動向

対前年同月比 -15.8%

対前年同月比増加地区

県北地区：6.7% 市内病院新築工事、市内企業新社屋整備事業等

対前年同月比減少地区

県中地区：-3.1% 旅館ホテル増築工事、マンション新築工事等

白河地区：-31.2% マンション建設工事等

いわき地区：-2.5% ショッピングモール建設工事、小名浜道路下部工事等

相双地区：-31.0% 広野火発石炭貯蔵設備、サッカー場新営工事等

会津地区：-35.9% こども園新築工事、太陽光発電所架台工事等

○官公需の動向

対前年同月比 98.4%

対前年同月比増加地区

県北地区：3.0% 福島市体育館新築工事、東北中央自動車道桑折高架橋工事等

相双地区：9.6% 富岡、浪江消防署庁舎建設工事、国道140号戸渡トンネル工事等

会津地区：36.1% 砂防施設工事、会津美里町役場新築工事等

対前年同月比減少地区

県中地区：-52.1% 須賀川市ゴミ処理施設工事等

白河地区：-46.4% 道路橋梁工事等

いわき地区：-14.5% 港湾災害復旧、市内共立病院新築工事等

鉄鋼・金属

<鉄工工業>

(県中地区) ここに来て、もう受注しても納期に間に合わない仕事(物件)が出始めてきた。鉄工所においては受注残が多く、断ったケースが増えている模様。地域だけでなく関東から東北にかけて工事量が増えているのではと予想される。

一般機器

<各種プラント機器>

売上が前月比で26%の減、前年同月比においても30%の減と不調であった。前年累計比においても82%と苦しい状態が続いている。現在の引き合い状態から見ても、来月も厳しい状況が続くそうである。

その他の製造業

<漆器>

「会津ものづくりフェア」で陶胎漆器を再現。大きな反響があった。今後も会津漆器協同組合、会津本郷焼協同組合、福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターの協働を考えていきたい。

卸売業

<卸売業>

10月期は天候不順が続いたため野菜等の仕入価格が高騰した。一方で、寒さが例年より早まったため、冬場に向けた季節用品の売上は比較的好調だった。県

中地区の工事件数は、かつてのような勢いがなくなってきており、建築資材を扱う卸業者の売上げが厳しくなっている。また、人手不足については、依然として改善がなされていない。業種により幅はあるが、好条件を示しても中々人が集まらないという声を耳にする。

<再生資源>

古紙価格の大幅下落により、市況価格も大幅下げ、なおかつ市中の回収量は更に減少し、収入減の状況。鉄スクラップも軟調に推移、様子見ムードである。

<米麦事業>

米穀の販売単価は昨年より上り、売上高は増えた。

小 売 業

<共同店舗>

(〇ショッピングセンター)

今月は、稲刈りシーズンで売上ダウンを想定していたが、台風襲来の影響等で農作業を早々と終わらせ来店客が増えた。ハロウィンお楽しみ企画は、予定数量を超える販売となった。次月は、収穫収入後のイベントとなり、売上増を期待したい。

<石油>

原油価格の上昇に伴い、元売各社の仕切価格も上昇している。特に、灯油については、大幅に仕入が上昇となった。今後、冬場へ向け更に一段の上昇が見込まれる。

<水産物>

10月はイベントが多い月だったのでうまく利用できた店と、逆に外出機会が多くなったため、客が減った店等、地域や店の業態により明暗が分かれた。

<青果>

昨年の同月は災害による品薄で価格が高騰したのに比べ、今年は価格が落ち着いているのにも関わらず取扱が伸びず、さらに会津身不知柿も昨年に比べ極端に低価格(昨年は春先の冷害で品薄)であり、取扱高の減少となった。来月中旬くらいまで会津身不知柿の取扱が続くので期待したい。

<家電>

個展、合展など11月から12月迄あるが部分的に良いが全体的には収益が落ちている。特に修理収益が落ちている。今後修理収益は良くないと思われる。また、アンテナ工事なども減少している。

商 店 街

<福島市>

毎年、体育の日を含む休日は、福島市の稲荷神社の例大祭となっており、市内の各町内で山車が引き廻され、街は出店に向かう人で溢れ、また太鼓の音があちこちから響いて活気に溢れている。今年は、天候にも恵まれ、例年よりも人通りが多かったように感じられた。しかしながら、月の中旬から下旬にかけては、台風や衆議院選挙の影響か、まさに、「祭りの後」といった様子で街には全く活気を感じられなくなった。

<郡山市>

秋の北海道展は好評だったが、催事が終わると火が消えたように静まりかえったため、前年を上回る売上には届かなかった。主要品の売上がなかなか厳しいよう。商店街では、売場面積が広い1階の空き店舗に数年ぶりに店舗が入った。徐々に新しい店舗が決まる一方で、廃業する店舗があるため、なかなか空き店舗の減少にはならないのが現状。

<南相馬市>

「あきいち2017」が快晴のもと11月3日開催された。主催者側発表7,000人とあり、久しぶりに中心市街地が賑わいをみせた。栄町では同時企画として「栄

町まつり」を実施。牛肉の試食、投げもち、ドローン体験、新そばと大盛況の一日となった。

<会津若松市>

アーケード工事が始まり、多少なりとも落ち着かない面もあるが、早期の完成を願いたい。お客様のアーケード完成に対する期待感が感じられる。本格的な秋を迎えて、来客数、購買力が天候に左右される場面があった。

<いわき市>

天候を理由にしてしまえばそれまでだが、2週連続の週末台風は売上に大きく影響した。台風以外は天候にも恵まれ、街を歩く方も9月より増え、秋物の買い物も順調であったが、大勢の人出が見込める「街なかコンサート」も雨に祟られ、飲食店を中心に売上が落ち込んだ。駅前大型店の10周年誕生祭も台風の影響で前年に届かなかったようだ。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

10月の週末がことごとく雨のため紅葉観光客の入込みが落ち込んだ。温泉街の小売店、飲食店に大きな打撃であった。宿泊観光客においては、予約されているので天候に左右されず週末は満室状態となっていた。しかし、平日は空室が目立つ月でもあった。最近、国県のインバウンドプロモーション効果や一部宿泊施設のWeb予約システム等の導入により外国人が結構訪れる月であった。

<美容業>

前月の反動で、今月の県内消費はやや悪化したサロンが目立った。浜通り地区で消費行動がやや悪いところぼす業者が多くなっている。国は経済界に給与アップするように促しているが、経済界の経営者は株配当に躍起になり、従業員の給与等の改善を渋っていて肝心の給与アップに二の足を踏んでいる状況であり、川上から川下にスムーズに流れてこない。こんな時は、自店での体力が大きな差となることが考えられるが、我が美容業界は技術を売ることを考えて取り組む必要があると感じる月であった。

<理容業>

9月が悪かったため、10月に期待したが今月も景況は悪かった。天候もパツとせず、全体的に活気がなかった。どの方も同じよう。暇なことを天候のせいにはしたくないが大半が固定客なので涼しくなるとどうしても周期が伸びる。今はこれといった人気メニューもないため単価も上がらない。景気が回復し、生活にゆとりが出れば活気に戻ると思われることから、今は癒しのメニューを充実させ地道に頑張っていくしかない。

<一般廃棄物収集運搬>

通常業務については前月同様の売上げを見込んでいる。産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、しばらくは増加することはないと思われる。雇用については組合員各社で人材の確保に苦慮している。最近の傾向と思うが、従業員の定着率が低くなっている傾向がある。対策を検討したい。

建 設 業

<建設業>

(県南地区)

建築・土木のどちらも工事量が少なく低迷が続いている。中小建設業が受注できる物件が少ないため、一層地区内の建設業が疲弊している。改善する見込みが当面なく、雇用の維持にも悪影響が出てくる可能性がある。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請とも増加。前年同月累計対比では、給水・排水設備申請とも減少している。

<専門工事>

顕著に確実に急速に冷え込んできている。一説には、震災前の状況より悪化するともいわれており、十分な警戒と対処が必要であるが、外部から流入した勢力も依然多数が残っており、地域としての一枚岩になりきれていないのが実情である。特に、元請ベースで流入した地域外勢力にとっては、純然たる利益確保以外、福島で業務を遂行する意味はなく、地域を守り、育て

るといった意識が欠如している企業もあることが課題となっている。

運 輸 業

<トラック団地>

燃料は値上がり傾向にあるが、今のところ収益への影響は少ない。

<ハイヤータクシー>

台風の影響で長雨となり、天候が悪かったこともあり前月と比べ売上が微増となった。